



混合研究法入門 質と量による統合のアート

著：抱井尚子
四六判・148 ページ
定価：本体 2,000 円＋税
発行：医学書院(03-3817-5600)

多様な混合研究法の全体像を効率よく学べる入門書

評者◎大山裕美子

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護キャリアパスウェイ教育研究センター特任助教

研究実践において、研究目的をもとにリサーチクエスションを立てる際に、質的研究法または量的研究法のどちらかで行なうことを意識するあまり、本当に自分が明らかにしたかったことから少し遠ざかってしまう経験をするのは珍しくないことであろう。そのような中で、混合研究法(Mixed Methods Research: MMR)は、質的研究法または量的研究法的一方のみでは十分に明らかにすることができなかった研究課題に 대응する可能性があることから、看護研究においても近年注目が高まっている。

しかし、いざ MMR について勉強しようとする、書籍による内容や用語、主張の違いに遭遇したり、トライアンギュレーション法など従来の研究方法との違いがわかりにくかったりして、暗中模索に陥ってしまう方も少なくないだろう。本書は、このような状況を打開する道しるべとなり、「そういうことだったのか」と霧が晴れ、MMR の意義が腑に落ちるような感覚を味わえる 1 冊である。

本書は 8 章で構成される。第 1～3 章は MMR の歴史的発展やコミュニティの多様性など MMR のバックグラウンドが詳細に述べられ、全体の約 4 割を占める。第 4～7 章では MMR の具体的な手続きと実際の研究例が紹介され、第 8 章で MMR の質の評価や研究報告の方法について解説する形で構成されている。MMR の「ハウツー」を求めて本書の目次を眺めると、一見、自分が求

めている内容とは違うかもしれない? と感じたり、また第 3 章までの内容はいささか難解にみえて、読み飛ばしてしまいたくなるかもしれない。しかし第 3 章まで通読してみると、実はその内容は、MMR を学び、バランスよく知識を身につけるためには欠くことのできないものであり、むしろ、MMR の理解をよりスムーズにしてくれることがよくわかる。

「MMR コミュニティの多様性」「MMR の歴史的発展と現状」など、各章のタイトルも難しそうに感じるかもしれないが、随所で用語の解説が丁寧になされており、初学者でも内容を理解することは十分可能である。MMR を勉強したことがあれば、自分が認識している MMR が、多様な MMR コミュニティの中でどのような位置づけにあるかを知ることができ、さまざまな知識レベルに即して、効率よく理解する助けになるだろう。

もしも、本書の内容が抽象的でよくわからないと感じた場合は、質的研究手法または量的研究手法、もしくは両方の研究手法に関する基本的な知識が不足している可能性がある。混合研究法「入門」ではあるが、MMR を構成する質的研究法・量的研究法の基本的な内容に関しては各自学習が必要である。それを踏まえた上で、MMR に取り組もうと考えている方は、まずは本書を読み、もしくは常に傍らに置きながら研究すれば、MMR の全体像がつかめて、理解が数段深まることは間違いない。